

ローランド株式会社

2021年12月期 決算説明会 Q&A 要旨

日時：2022年2月14日 13:00~14:00

説明者：代表取締役社長 三木純一、取締役 CSO&CMO ゴードン・レイゾン、
上席執行役員 CFO 杉浦俊介

Q1.半導体の調達状況について、3か月前と比較した変化と今後見通しについて教えてください。

半導体を含む原材料の調達状況は今期下期からの緩和を期待していますが、足元では厳しい状況が続いています。当社ではサプライヤー様と緊密なコンタクトをとり、長期的なオーダーを出すことで原材料確保に努めています。

Q2. 調達制約のある材料はどのようなものでしょうか。特定の品目に集中しているのでしょうか。

2021年上期は主に半導体が不足していましたが、下期からは汎用電子部品にまで不足品目は拡大してきました。設計変更含めできる限りの対応を継続しています。

Q3. 2021年の原材料高騰、輸送費高騰の影響額はどの程度でしょうか？また、2022年の予算にどの程度織り込んでいるか教えてください。

2021年については原材料高騰と輸送費高騰の合計でおおよそ25億円程度の影響がありました。2022年は対2021年比でおおよそ15億円程度の影響を予算に織り込んでいます。

Q4. 価格適正化を今期1Qに実施するとのことですが、2021年と同様に今期も2回以上実施する可能性がありますか？

現時点で予定はありません。更なる価格適正化はできる限り避けたいと考えていますが、コストの上昇状況は常に注視し、適切に対応してまいります。

Q5. 2021年は、コストアップ影響を価格適正化ですべて吸収することはできなかったと思いますが、2022年は吸収できると理解していいでしょうか。

価格適正化にはタイムラグが生じてしまうため、2021年に実施した価格適正化の効果がフルに寄与してくるのは2022年になります。足元はさらにコスト上昇がありますが、今期の価格適正化も含め、吸収できると見込んでいます。

Q6. マーケティングドリブンカンパニーへの進化の加速のために、今のローランドに足りていないもの、また潜在力を発揮するための課題は何でしょうか。

すでに、イノベーション力、顧客理解力、ブランド力などのスキルは十分にあると考えています。これらを用いて世界各地の言語で、市場状況にあわせ顧客とコミュニケーションすること、そしてそのスピードを上げていくことが重要だと考えています。

Q7. 新たなマネジメントチームに三木社長が期待することは何でしょうか。

マーケティング強化や真のグローバル企業化、海外人財を含めた組織・人財活性化を大きく期待しています。また若返りする中で、さらに当社のポテンシャルが発揮されることも期待しています。

Q8. M&A の可能性や、今後の成長に向けた設備投資の考え方について教えてください。

M&A や設備投資についての具体的な計画は現時点ではありませんが、イノベーションを続け、付加価値を高めていく中で、足りないと思うものがあればキャッシュを使っていきたいと考えています。

Q9. 昨年 12 月 27 日に開示した「主要株主の異動（予定）」について、フェンダー社との協業の可能性について教えてください。

フェンダー社とは過去に協業の実績がありますが、現在協業関係はありません。今後についても決まっていることはありません。

※本資料は、ご出席者様から頂戴した主な質問をとりまとめたものです。回答の意図をより分かりやすくするため一部加筆修正を行っております

免責事項

本資料には、ローランド株式会社の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、

当社における実際の業績と異なる恐れがあります。